

春日神庭借馬画

一馬口附の若月かり衣さし黄と見え申しかり 衣さし黄と
差被或ハ樂意の歌はけ多きは付物申しはけ若月借取
之の先ハかりて梅一軒まほむを立流の歌あてりて
免角かき龜形りのよのぬりたひ

夕天暮海也牡丹の花意の花形ハ造り多と
金箔あてしきり物と見えて却て付物ハ時々
人の好むて風流みじりものかハ定法ハ大日
物と見えハ樂意の歌ハ紙形とあて作り 彩色
きりもの好むし 衣被めとら方々のあて

て山を以てその下は花形のやうなるものと蒿蒲か
よと申すはしり傳承のよき蒿蒲のていつてよと申す
其丈言銀面の銀少て作るものとも角袋
ハ稀少て作る 右面品諸鞆日記少て考ふらば
蒿蒲のていつていつていつていつていつていつ
形多し

一 首の下めとぬたるものと首ふとて申すは傳承のよ
何れかといふも大しと申す也

其丈言諸鞆日記ハ預後しておかしものちよ付
傳承のよきとぬ玉と申すきて下へあり長廿八
余はうと云ふと風鐸のまじりかゆき作る
其ふみ穴とあけて環縁と多しなり又その中
より玉と申すきききききききききききききき
あつてはぬ玉と申すなり

一 山を以てしり傳承のよ

其丈言鉄少てあつては傳承のよき杏葉一ツハ
萩葉衛也

一 手総ハ布之結と申すはしり傳承のよき
て是きと申すはしり傳承のよき
其丈言白と申すものありと申す

一さしねといふ布と云うりよふを合せ用ひに繩を二巻
有さし繩をきねと云ふは各所傳ありしゆ今に法
の指繩い何と云ふの事也

一あまうい麻といふ付るまの二子といふは四方の母付
と傳ありしゆを軍記考圖にも出るは何れも傳
中と云ふ

一あまかいむらうい麻といふりよめを傳へし中と云ふ
又夫言草めて傳へし中と云ふ

一尾ういのことある物の名不明尾代衣のかさうりねうと
又もふじゆ傳ふは又何れはしらへし中と云ふ
又夫言諸鞆日紀も尾代衣といふ尾を各尾も取て
尾首も入て付るは何れの家の名も媒のやうなるもの
と何れも傳繪圖諸尾のよめあるものも尾代衣の
かざりねと云ふ

一尾袋いんごの巾着くはる
又夫言尾袋何れも傳へし巾着といふ事も詳し

一尾袋いんごの巾着くはる

一尾のふゆを珠とてかきめはしらぬ。宝珠の
あつと作あつた何何のふゆ

貞丈言金の所も有本の前と何う
貞丈云宝珠
と亦めて

とりせかひ
を指とり

一むのい麗ふよ吾禁よりあを作るは
あてりし切し色むは作承り
貞丈言理前よ解る後のおし

一鶴の唐靴のは作承りし作承りし
貞丈言靴の作承りし作承りし

一馬の脊このよめかけぬるのち借と云ふ色をい何ぞ
作りやめや

貞丈言襪脊文脊履をいふ綿を衣にして裏
ハ布作り中ハ東席と入る也
貞丈云東席ハ畳の
表のやねるものなり

カラムシロト云
こまくと傳ふと云

一あぬの編織也のよめりし何ぞは

貞丈言かひめて作り
貞丈言かひめて作り

一もろひいんやめ

貞丈言ろひいんやめ
貞丈言ろひいんやめ

右大右と通と作り
右大右と通と作り

右一冊ハ平貞大宅 師小請て書寫て
早午時安永八己 亥年五月廿日

（Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like 貞大, 師小, 亥年, 五月, 廿日, and 書寫て）

